

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
訪問調査日	平成21年12月9日
評価確定日	平成22年1月29日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300393		
法人名	社会福祉法人 恵仁会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	鹿児島県鹿屋市下祓川1805番地 (電 話) 0994-40-2588		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】(21年11月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.05 人

(2)建物概要

建物構造	合金メッキ鋼板葺平屋造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり 950 円		

(4)利用者の概要(11月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	5	名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 85 歳	最低 66 歳	最高	102 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青仁会 池田病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市郊外に母体医療法人の病院、施設が立ち並ぶ一角に当ホームがある。早くから母体の医療法人は地域医療、福祉の充実、地域交流を目指し、地域に貢献してきた歴史がある。10年を経たホームの職員は「入居者は必ず状態が改善する。」と、自信をもってケアにあたり、設備面でも最期まで関わりをもつ体制が整っている。利用者に合った生活を維持し、食事や筋力トレーニングに力をいれるとともに、かかりつけ医に情報提供を図り、薬を減らしたり、また、オムツ使用軽減にも努力し、金銭面での負担を少しでも軽くしようと配慮している。利用者、職員ともに喜びを感じながら楽しく過ごしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題はなく、より良い運営に向け、日々改善に向け、努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々のミーティングの中で職員全員が自己評価に取り組み、日頃のケアを振り返り、更なるケアの向上に活かしている。家族会や運営推進会議に報告し、意見をもらっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月ごとに運営推進会議を開催している。理事長、管理者、家族代表、利用者代表、民生委員、町内会長、市役所職員、包括支援センター職員などの参加があり、利用者の状況、サービス状況、外部評価の結果報告を行っている。参加者それぞれの立場から意見を貰い、運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームには意見箱や第三者委員会を設置している。出された苦情・要望は書面に記載し、職員で改善に向けて話し合いを行い、第三者委員会に図り運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会の運動会、棒踊りに参加している。小、中学生の体験学習の中で生ごみのリサイクルなど、高齢者の知恵を伝授している。地域の保育園児や施設の保育園児、長寿園、デイサービス利用者とのふれあいも楽しんでいる。管理者は認知症サポーター養成講師として地域に貢献している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で暮らし続けることの大切さを念頭に利用者が安心して生活できるホームとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、日々のミーティングにおいて理念の具体的な実践について話し合い個々のニーズに添ったケアに力を入れ、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接施設利用者や地域の方が気軽に散歩中立ち寄り、交流を図っている。地域自治会主催の運動会、棒踊りなど積極的に参加、小中学生の体験学習も受け入れ、高齢者の知恵の伝授（生ごみのリサイクルなど）を行ったり、保育園児との交流、また、利用者も行事に出演披露している。職員は地域に対して認知症ケア研修会の情報を提供、啓発活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は前回の結果を共有し、ミーティングの中で全員で取り組み日頃のケアを振り返ってケアの向上に活かしている。自己評価、外部評価は家族会や運営推進会議で報告し、意見をもらっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に理事長、管理者、家族代表、利用者代表、民生委員、町内会長、市役所職員などの参加があり、利用者の生活状況、サービスの状況、外部評価の結果報告など行っている。それぞれの立場から意見をもらい相談なども行い、運営に役立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課や法人内にある地域包括支援センターへの訪問、相談を通して問題解決に取り組んでいる。生活保護利用者もいて市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは年2～4回発行している。毎月、請求書の発送時に写真入りの便りで近況を報告している。金銭管理は毎月の便りや面会時、家族会時に報告、確認している。職員の異動はその都度、家族会などでも紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには意見箱を置き第三者委員会を設けている。苦情を訴えやすい雰囲気を作り家族との会話から要望をくみ取っている。意見等は法人内の会議や毎月のミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個別での職員面接を実施し、離職がないような環境づくりに配慮している。ゆとりのある勤務体制をとり、必要最小限の異動はあるが利用者や家族へのダメージには十分配慮、説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、積極的に研修に参加している。法人内勉強会も年6回開催し、ホーム内でも月1回、ミーティング時勉強会を実施している。全国大会に職員が参加し、研修発表を行っている。資格支援もあり、総数9名中5名は介護福祉士である。年2回の自己評価を実施し、努力や実績により表彰、各自のモチベーションが上がるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は大隅地区グループホーム連絡協議会の会長を務め、地域の同業者とともに研修会を企画し交流を通じた向上に取り組んでいる。同業者の研修を受け入れたり、職員の相互見学を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にホーム見学してもらい重要事項説明を十分行ない、納得してから入居になる。見学に来れない方には管理者が出向いて顔なじみの関係を作り、関係機関からの個別情報をもとに場になじめるよう配慮している。事前の情報と違うこともあるので最初の1～2ヵ月間は職員も利用者も生活調整をする期間として濃密なかかわりを持つ工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に出来るだけ生活の場にてもらい、生ごみのリサイクル方法や漬物の美味しいつけ方のコツ、ちまきの作り方、干し大根など利用者の知恵をもらい学んでいる。機能訓練を取り入れた生活を一緒にしながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者個々の生活歴や暮らしを把握し、回想法や散歩、畑作りなどを支援しながら日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの話や利用者の個別性が活かされるようにアセスメントを重視し、利用者、家族、主治医、看護師、理学療法士の意見をもらって利用者の機能を高めるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活、身体、栄養状況記録表にて状態把握し、短期に必要な応じた見直しを行っている。利用者や家族の意見をもとに現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や墓参り、理美容院の送迎など利用者、家族の状況に応じて柔軟に対応している。小学校やヘルパーステーションなどに職員を講師として派遣し、地域に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医になっている。同敷地内に病院があり、往診もできて家族の安心と信頼を得ている。訪問看護との医療連携もあり、細やかな健康管理の情報共有のもと早期対応ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し、利用開始時に説明し同意書をとっている。事例に当たってはその都度、話し合いを重ね家族も納得できる支援をしている。ターミナル期は24時間シート記録をとり、細かい状態把握を図り、職員の情報共有に活かされている。職員も方針を共有し、ターミナルケアの勉強会もくり返し実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に研修を行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けに対してはお互い注意し合っている。ホーム便りの写真掲載についても同意を得ている。職員採用時の個人情報の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが個々のペースを大切にしている。起床、就寝時間もまちまちで早起きの利用者はお茶と黒砂糖で団欒し朝食を待っている姿もある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を美味しく食べてもらう事に力を入れている。メニューには季節の野菜やさしみなど利用者の好物を多く取り入れている。食事の下ごしらえ、配膳を能力に応じてしてもらい、会話を楽しみながら和やかに支援している。年1回は全員で外食しているが希望者にはその都度応じている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭の延長という考えで入浴時間は午後から夕方にかけて支援している。入浴拒否の方には無理強いせず声掛けを工夫、身体状況によっては二人介助で対応したりして、一人ひとりの時間をゆっくりとり、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽療法、健康体操を実施している。洗濯物たたみ、配膳係り、季節に応じた保存食づくり、餅つきなど役割を持って参加している。化粧したり新聞、雑誌を読んだりして思い思いの日常生活を営んでいる。年間行事の花見や観劇を通して気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園のまわりの散歩、ドライブなどして、季節を感じて貰っている。「畑を見に行こう」と、散歩に誘い日光浴を促し、安眠につなげている。機能訓練もかね、日常的に屋外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしの支援をしている。職員は常に利用者のいる場を把握し、お互い確認し合っている。外出した際はさりげなくついて行くなど見守りで対処している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜想定で避難訓練を消防関係者、近隣施設の協力を得て行っている。救急時対応の研修も定期的の実施している。法人の施設は自家発電もそなえ備蓄の管理も法人単位でなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が個々の状態に応じた栄養指導や献立チェックをしている。食事形態も個々に応じて考慮している。毎月、体重測定をし、職員全員が利用者の状況を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大広間の空調は湿度にも気をくばり、ピアノもあって音楽療法に活用している。和室や広間、廊下にソファを置き、気の合った者同士、話が出来るように配慮している。利用者や職員が使いやすいように手作り家具など工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に説明し、できるだけ使い慣れた物を持参するようお願いしている。居室には使い慣れた家具やテレビ、位牌、趣味の品など置かれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。冬場の乾燥対策には濡れタオルを置いて対応している。		